

滝高フロンティアサイエンス通信

11号

2013, 7, 11 発行 SSH・理数科

1年FSI 科学技術が支える人間生活と環境 「北海道電力砂川発電所」 見学

7/10（水）1年理数科は、北海道電力砂川発電所（火力発電所）に研修に行ってきました



熱心に説明を聞く「当発電所は石炭で電気をつくっています。**ボイラー**で石炭を燃やし蒸気を作り、蒸気で**タービン**を回します。この回転力が**発電機**に伝えられ電気に生まれ変わります。」



「発電所のユニットはボイラー、タービン、発電機です。稼働しているのは、3号機、4号機です。」
中央操作室でパチリ！ヘルメットが様に！！ 石炭は1日約3000tトラック400台分になります。



環境に有害な物質を排出していないか、常に監視しています。この発電所では全道のほぼ4%を供給しています。発電所が川や海に隣接するのはタービンを回転させた高温の蒸気を冷却するため大量の水が必要となるのです。向こうに見えるのが、石狩川と奈井江の発電所です。



煙突は120メートル。内部にらせん階段があります。ここは屋上8階 すばらしい眺めです。

工場のスケールの大きさに驚きでした。最後、矢継ぎ早に質問がでました。今までの大きな事故は（矢印配管破裂）大きな災害は（S56の石狩川氾濫→緊急停止）、緊急停止した場合電気の供給は（正常供給ラインから切り離し需要側になる）、採炭地は（奈井江は100%道内、砂川はロシアの石炭とブレンド）CO2対策は（燃焼効率、発生CO2ガスの回収技術開発）原子力発電所の再稼働についてどう考えますか？皆さんの質問によって、さらに詳しいお話をさせていただきました。充実した研修となりました

滝高フロンティアサイエンス通信

